

北海道・三陸沖

地震・津波に備えを！



マグニチュード

M7.0以上の大地震が
起きたら…

東日本大震災のときは

3月9日
M7.3

続いて
発生

3月11日
M9.0

続いて発生する 巨大地震の可能性！ 情報で備えを

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」2022年12月運用開始

※情報が発信されたとしても、必ず巨大地震が発生するとは限りません。

すぐに避難できる態勢の準備を！

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

枕元に靴等を置いて寝る



すぐに逃げ出せる
態勢での就寝



非常持出品の
常時携帯

インターネット



緊急情報の
取得体制の確保

崩れやすいブロック塀等に
近づかない



想定されるリスクから
身の安全の確保

L字
金具



日頃からの
備えの再確認

内閣府(防災担当)・気象庁・新冠町

詳しくは
こちら



北海道・三陸沖後発地震注意情報の運用が始まりました！ (令和4年12月16日運用開始)

北海道や三陸沖の太平洋側の沖合いでは、マグニチュード7クラスの地震が発生した後に、さらに大きな地震（後発地震）が発生した事例が確認されており、今後も同様の事象が発生する可能性があります。

後発地震が発生した場合には、新冠町を含む広い範囲で甚大な被害が想定され、その被害を少しでも軽減するため、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺でマグニチュード7以上の地震が発生した場合に、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発信されることとなりました。

情報が発信された場合には、先発地震の発生から1週間程度の期間「防災対応の呼びかけ」が行われますので、後発地震の発生に備えた防災対応をとりましょう。

とるべき防災対応の例

情報発信から1週間程度、備えの再確認や迅速な避難体制の準備を行う等、平時よりも巨大地震の発生に注意しましょう。

【地震時に迅速な避難が必要な場合】
揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合、直ちに津波から避難できる体制の準備

すぐに避難できる体制での就寝

- ✓ すぐに逃げられる服装で就寝
- ✓ 子どもや高齢者等、要配慮者と同室で就寝
- ✓ 室内で最も安全かつ避難しやすい部屋の使用



非常持出品の常時携帯

- ✓ 準備しておいた非常持出品を日中は常時携帯、就寝時は枕元に置く
- ✓ 身分証明書や貴重品を常時携帯
- ✓ 防寒具等、積雪寒冷に備えた装備を手元に置く



【地震によるリスクの高い場所がある場合】
想定されるリスクからの身の安全を確保する備え

揺れによる倒壊への備え

- ✓ 先発地震で損壊した建物や崩れやすいブロック塀等にはできるだけ近づかない



土砂災害等への注意

- ✓ 先発地震により、土砂崩れの危険性が高まっている場所にはできるだけ近づかない
- ✓ 崖崩れの恐れがある家では、崖に近い部屋での就寝を控える
- ✓ 地震発生後の津波からの避難が困難な地域に立ち入る際は、そのようなリスクのある区域であることを意識して、いつでも避難できるようにする



後発地震に注意し、誰もが実施すべき備え

緊急情報の取得体制の確保

- ✓ 携帯電話等の緊急情報を取得できる端末の音量を平時よりも上げておく
- ✓ ラジオや防災行政無線の受信機等を日常生活する空間に配置



日頃からの備えの再確認

- ✓ 水や食料等の備蓄の再確認
- ✓ 避難場所・避難経路等の再確認
- ✓ 家族との連絡手段の再確認
- ✓ 家具の固定の再確認
- ✓ 自治会単位での訓練等での再確認 等

